

## 5. 県政に関する意見（問31、報告書p.133～141）

### 【結果概要】

#### ①担当課

知事公室 広報課

#### ②調査目的

選択式質問においては、あらかじめ想定された選択肢に沿った回答が求められるため、県民意見の全体像を把握するのは困難である。このようなことから、広く県政に関する意見を聴取するために、自由記述による質問を実施し、テキストマイニング（自然言語処理）により、全体意見の要約と可視化、回答者属性による傾向の把握などを行う。

#### ③調査結果の分析・考察

- 県政に関する意見として得られた自由記述回答は、テキストマイニングにより集計および可視化分析を行う。テキストマイニングは、文章をまずキーワードに分割し（形態素解析）、分割したキーワードの出現頻度およびキーワード間の関係性を集計し、各種統計手法により可視化、分析することを基本とする。本調査では、回答者全体の話題の要約および可視化のために共起ネットワークグラフを用い、性別や年代、居住地などの回答者属性別の傾向の分析に対応分析を用いる。
- 共起ネットワークグラフは、一つの文章内で同時に出現（共起）するキーワード間に何らかの関連性があると仮定して集計し、出現頻度が上位のキーワード（点）と関連性（線）から成るネットワークグラフとして可視化したものである。共起ネットワークグラフは、数理的な手法により内部の密接につながる密度の高いキーワード構造を特定することが可能であり、これら内部のサブ構造は特定の話題を要約したものに対応すると考えることができる。また、共起ネットワークグラフで特定可能な話題は、出現頻度が上位のキーワードから構成されている主要な話題が中心であり、比較的出現頻度が低いキーワードから構成されている話題は特定が困難な点については注意が必要である。
- 対応分析は、回答者属性別（性別、年代、職業など）に、出現キーワードの特徴を2次元空間に表示したものであり、属性とキーワードが近い位置にプロットされるものは、その属性に特徴的に出現するキーワードであると考えられる。また、対応分析では、基本的には横軸（第1軸）と縦軸（第2軸）の2次元空間上に関係性をプロットするが、全体の位置関係の特徴（慣性）がどの程度説明されているかは、成分（%）によって表されている。この成分（%）が低いと、得られた2次元空間上のグラフでは、特徴が説明しきれていない可能性が高く、表示されている位置関係が偶発的に生じている可能性が高い点については注意が必要である。
- 共起ネットワークグラフによる可視化の結果、主要な話題を6つ特定することができた。その中で特定された話題のサブ構造を構成するキーワード数やその出現頻度を表す円の大きさより、「滋賀の琵琶湖をはじめとする豊かな自然や住環境が持つ魅力に関する話題」および「子育て支援および学校教育に関する話題」、「電車とバスを中心とした公共交通に関する話題」、「高齢化社会および災害の少ない地域に関する話題」、「県政の情報発信への要望に関する話題」、「道路整備および自転車交通に関する話題」についてが、県民が比較的高い関心を持つ県政話題であると考えられる。また、サブ構造を構成しているキーワード間の関係構造より、最も大きな話題を構成していたのは「滋賀の琵琶湖をはじめとする豊かな自然や住環境が持つ魅力に関する話題」であり、滋賀県の琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境やこれらを活用した観光対策、または住みやすい住環境について大きな関心事

であると考えられる。

- 対応分析の結果、問1の性別では、「女性」は滋賀県の豊かな自然環境や住環境の良さ、子育て、教育、病院や福祉に関する不安などの生活に関する話題が中心で、「男性」は道路渋滞や道路整備、公共交通対策、企業および観光振興、人口減少対策などの政策的な話題が中心で、ジェンダーバランスの偏りが見られる。
- 問2の年代では、第1軸の横軸上で18歳以上から49歳以下までのグループと50歳以上グループに分けられており、ライフステージの違いによる問題関心の傾向が表れていると考えられる。第1軸右側では、「50-64歳」と「65-74歳」、「75歳以上」のグループが隣接しており、生活支援や教育、若者支援、琵琶湖の保全、自転車交通対策、高齢者対策など県政全般に関する話題が特徴的であった。第1軸左側では、子育て世代への支援や仕事、企業対策、観光対策、各種施設の充実の要望、将来への不安などについての話題が特徴的であった。第2軸上では、上部に18-19歳が独立して位置しており、他の年代と異なる傾向を示しており、大学などの学校生活に関することや公共交通機関に関する話題が特徴的であった。
- 問3の地域別は、第1軸および第2軸上において、各地域がばらついて配置されており、それぞれの地域に傾向があると考えられる。「大津」地域グループは、教育や病院整備に関する話題が特徴的であった。「湖南」地域グループは、県政に関する外部への情報発信や滋賀県の自然などの県外へのアピール、生活上の不便さなどに関する話題が特徴的であった。「湖西」地域のグループは、道路渋滞やJR、バスなどの公共交通対策などに関する話題が特徴的であった。「湖東」地域と「東近江」地域グループは隣接して位置し、道路や公園などの整備と維持管理、医療機関の充実化などの話題が特徴的であった。「甲賀」地域グループは、若者の仕事の少なさや、関連して就労支援に関する話題が特徴的であった。「湖北」地域グループは、企業支援や誘致や親世代への介護支援に関する話題が特徴的であった。
- 問4の職業別は、「常勤」職グループは、道路整備や公共交通機関である電車とバスの充実への要望、保育園などの子育て支援に関する話題が特徴的であった。「学生」グループは、道路渋滞や医療機関の充実に向けた要望に関する話題が特徴的であった。「パート等」グループは、子どもや生活支援に関する話題が特徴的で、「無職」と「家事専業」グループは隣接し、災害対策や病院に関する話題が特徴的であった。「自営・自由業」グループは、琵琶湖環境保全や公園整備、自転車交通に関する話題が特徴的であった。
- 問5の居住履歴では、各グループがそれぞれ独立して位置しており、居住歴の違いによる他地域との生活経験の比較により、関心となる話題が異なると考えられる。「生まれてからずっと滋賀県に住んでいる」グループは、滋賀や琵琶湖についての情報発信や観光、道路整備、医療介護対策に関する話題が特徴的であった。「滋賀県で生まれて県外に転出後、再び転入した」グループは、滋賀の情報発信力や、全国に向けたアピールに関する話題が特徴的であった。「県外で生まれて滋賀県に転入した」グループは、自然環境の豊かさや公園整備や教育、子育て環境、バス公共交通に関する話題が特徴的であった。
- 問6の今後の滋賀への居住意向では、各グループが独立して位置しており、居住意向の違いで関心となる話題が異なると考えられる。「滋賀に住み続けたいと思う」グループは、子育てや教育環境、琵琶湖、高齢者対策、災害に関する話題が特徴的であり、「良い」や「安心」といったキーワードが隣接していることから、比較的ポジティブな意見が多いと考えられる。「どちらとも言えない」グループは、公共交通や渋滞対策、他県への滋賀の魅力の発信に関する話題が特徴的ではあるものの、「困る」や「不便」といったキーワードが隣接していることから、比較的ネガティブな意見が多いと考えられる。「住み続けたいとは思わない」グループは、将来的な医療体制の不安に関する話題が特徴的であった。
- 問7の滋賀に誇りを持っているかでは、「持っている」と回答したグループは、琵琶湖をはじめとする自然環境や滋賀が持つ魅力に関する話題が特徴的であった。「どちらかという

と持っている」グループは、生活施設および住環境や道路整備、子ども、企業誘致などに関する話題が特徴的であった。「あまり持っていない」のグループは、子育て支援や公園整備、道路渋滞に関する話題が特徴的であった。「持っていない」のグループは、医療機関への不安や京都をはじめとする他県との比較での不便さに関する話題が特徴的であった。

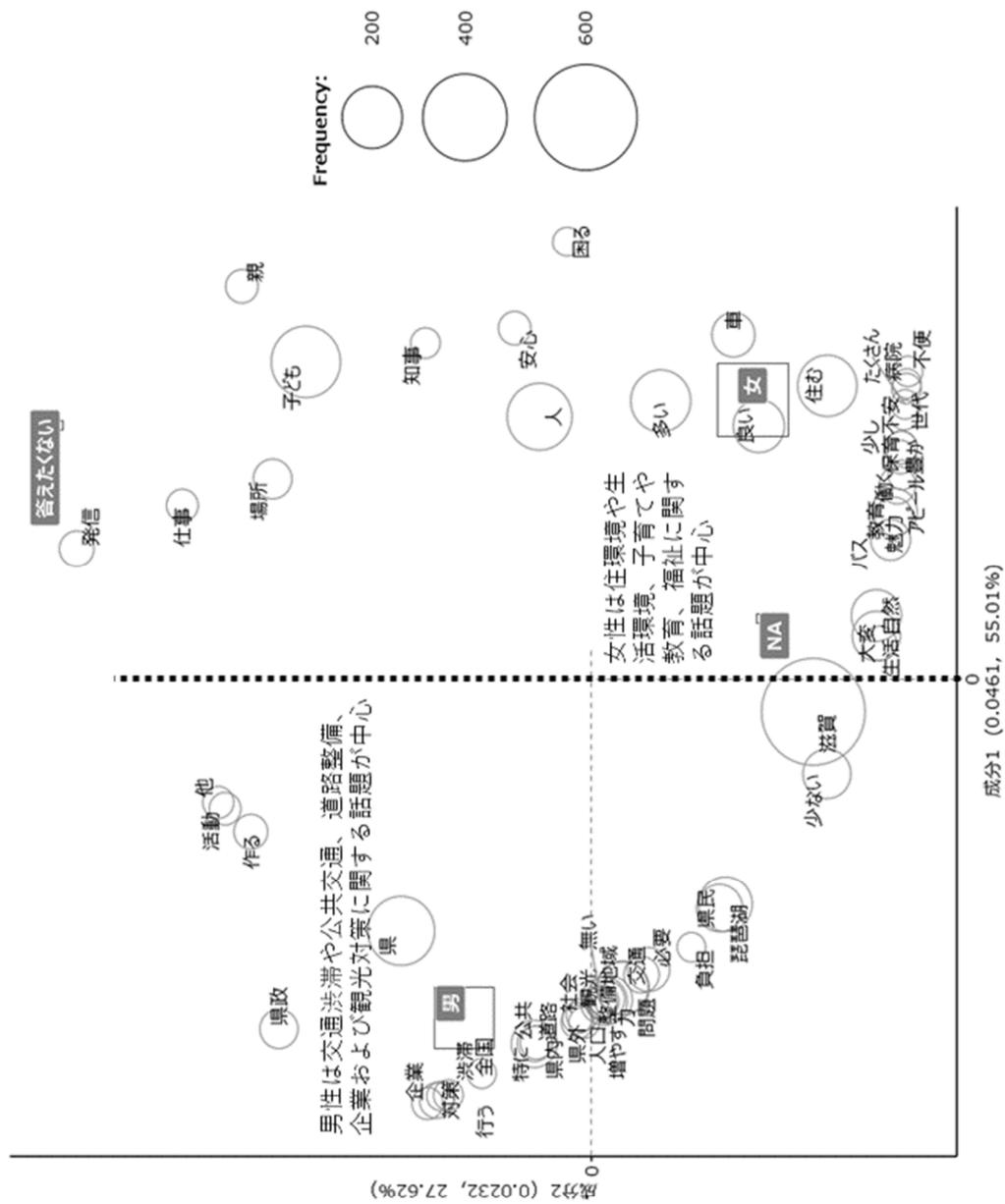
- 問8の県政に関心をもっているかでは、各グループは別々の象限に位置しており、県政への関心の度合いにより、関心となる話題も異なると考えられる。「関心がある」グループは、教育および労働、子育て環境、道路渋滞に関する話題が特徴的であった。「まあまあ関心がある」グループは、公共交通や災害対策などに関する話題が特徴的であった。「あまり関心がない」グループは、道路整備や生活上の不便さ、滋賀県のアピールに関する話題が特徴的であった。「関心がない」グループは、県政に触れる機会に関する話題が特徴的であった。

#### ④今後の施策への反映

可視化分析の結果を関係所属と共有し、今後の政策形成に参照・活用する。

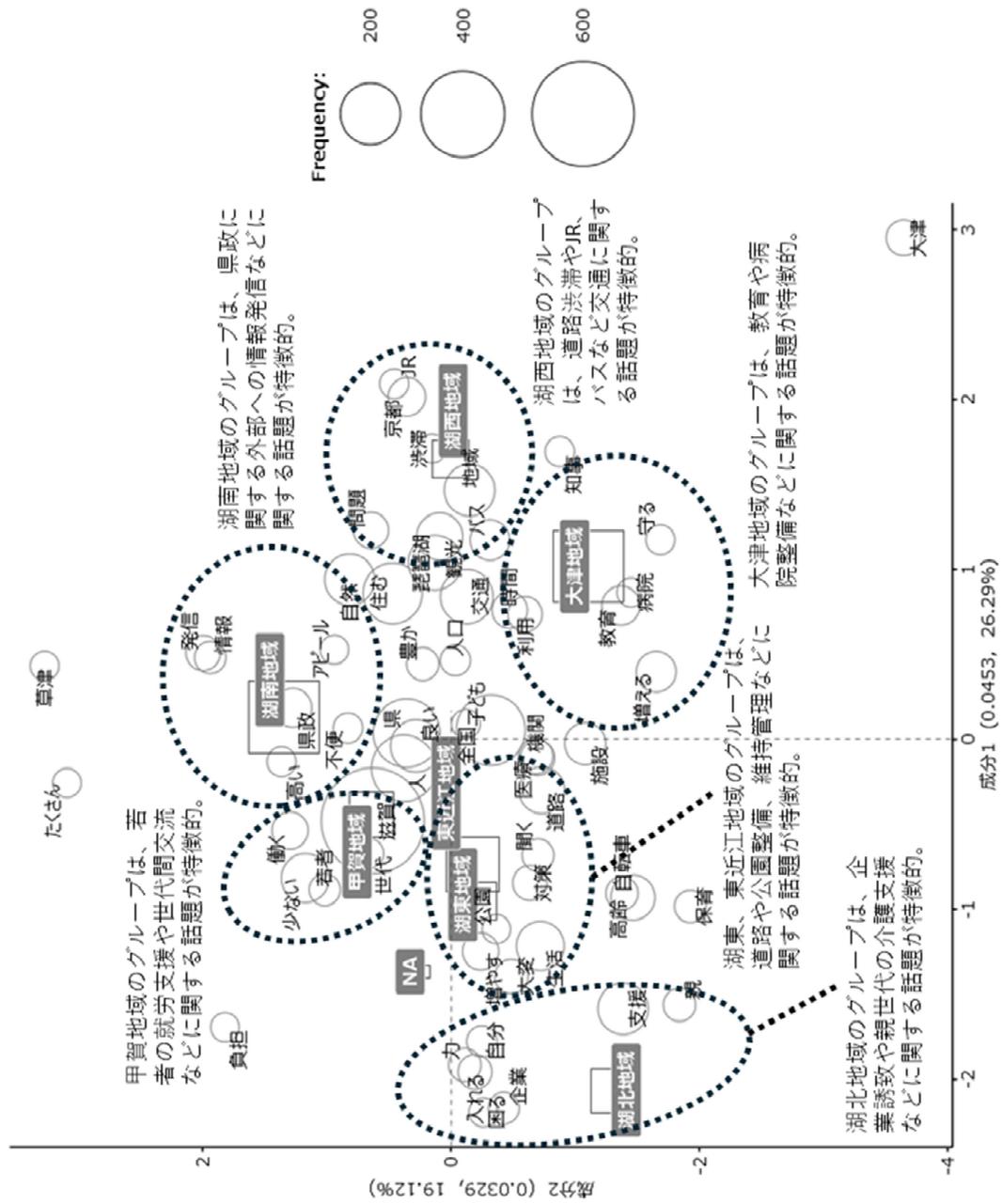


問1「性別」と問31「県政に関しての意見」対応分析による特徴の把握

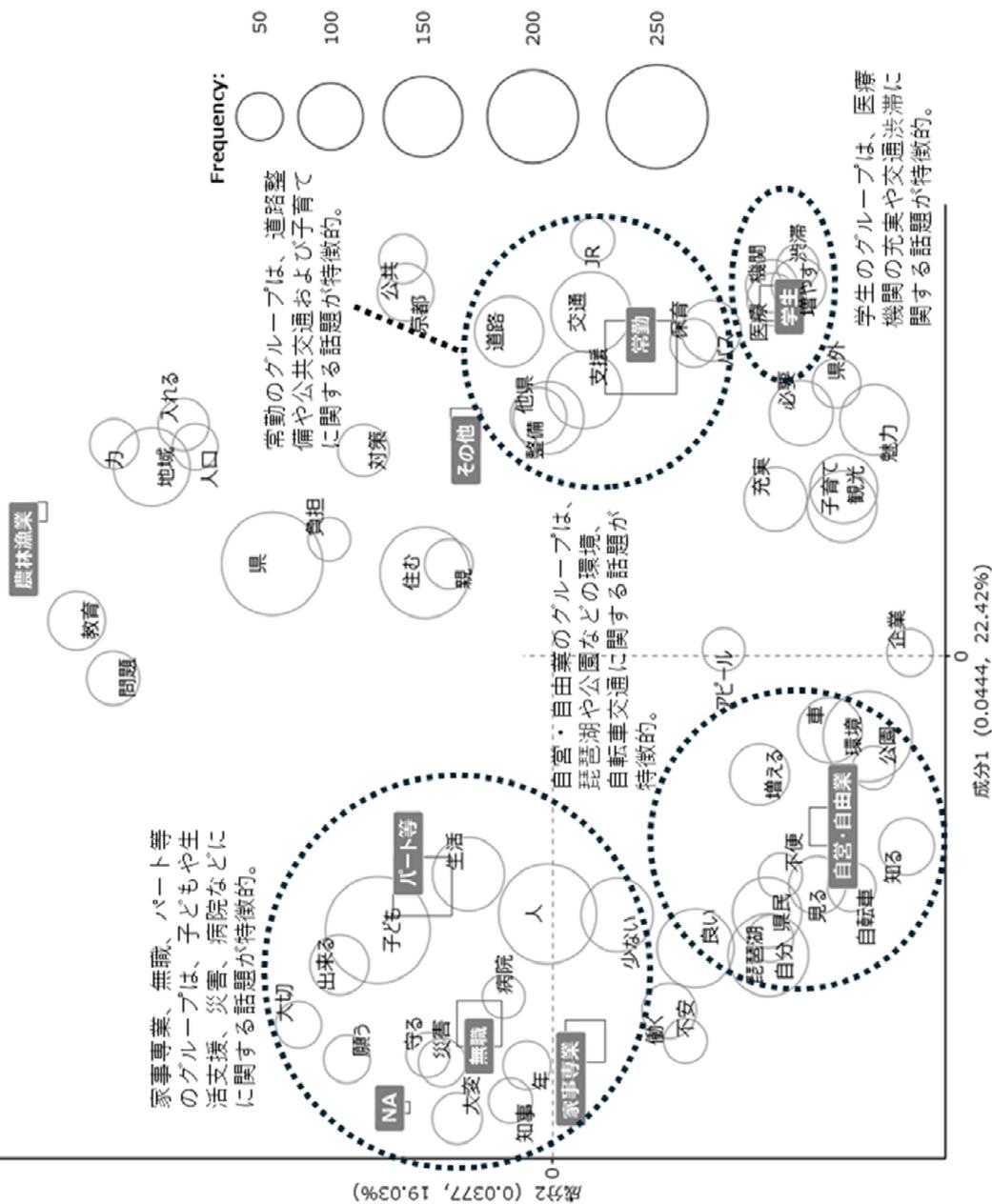




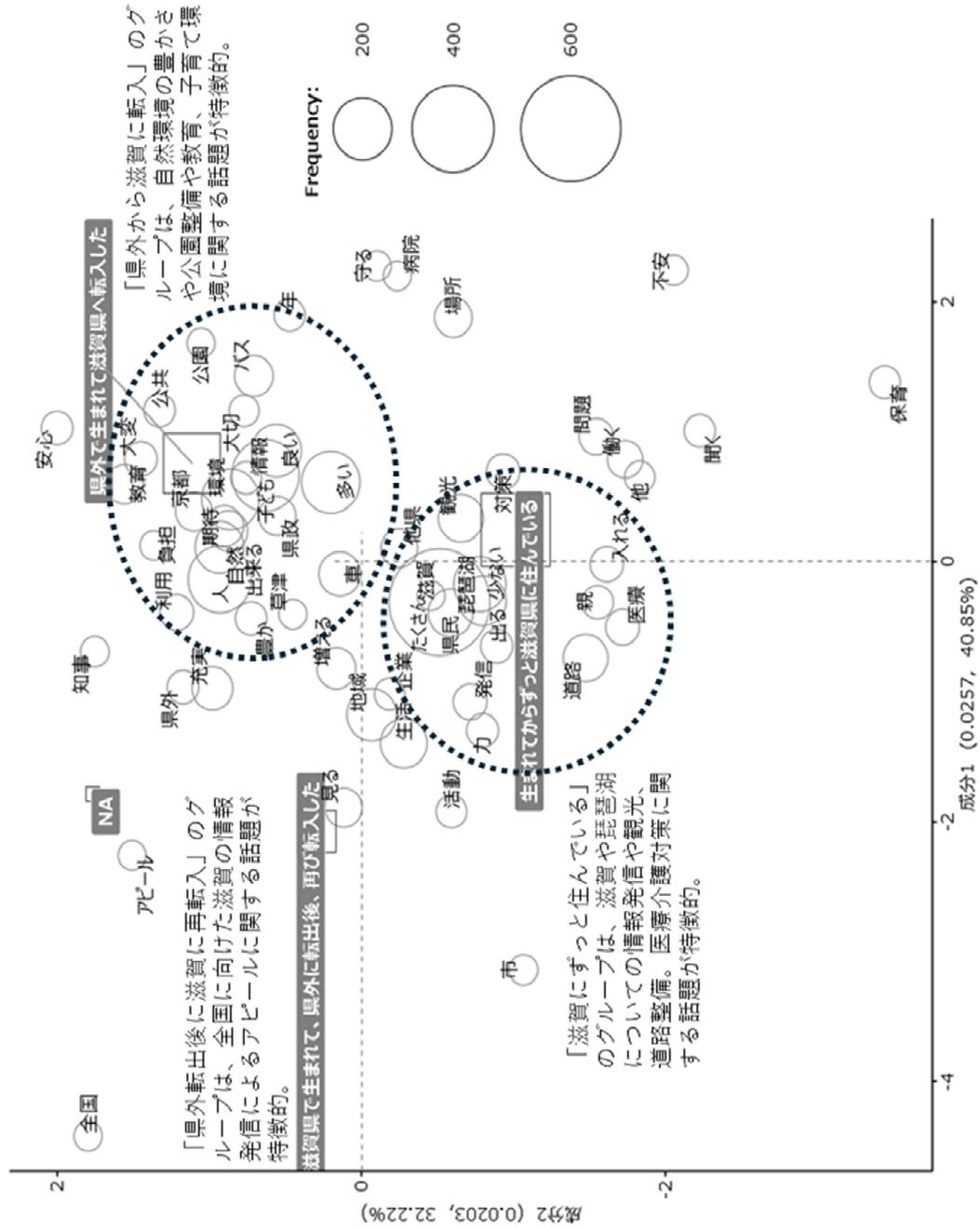
問3「居住地域」と問31「県政に関する意見」対応分析による特徴の把握



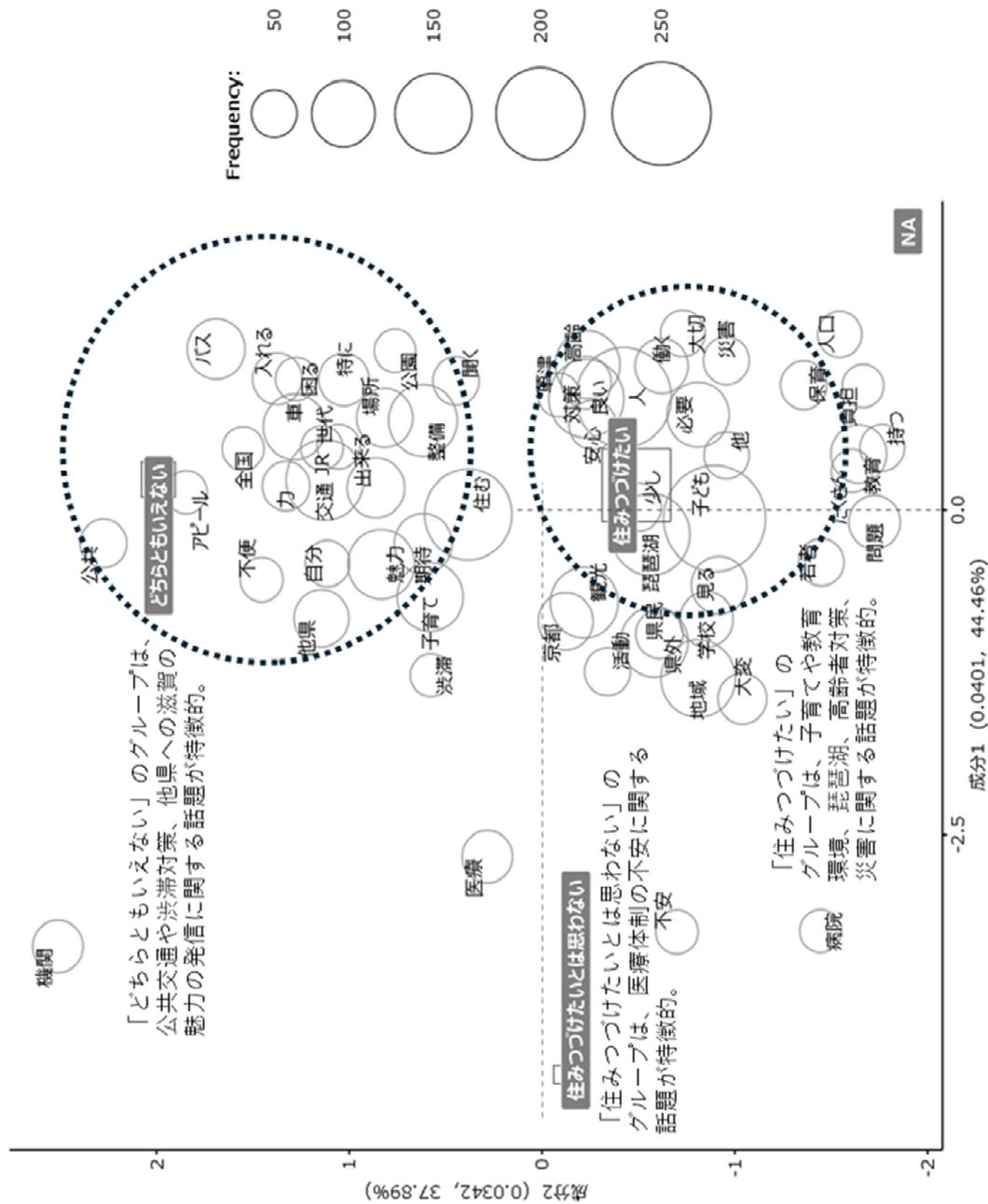
問4「職業」と問31「県政に関しての意見」対応分析による特徴の把握



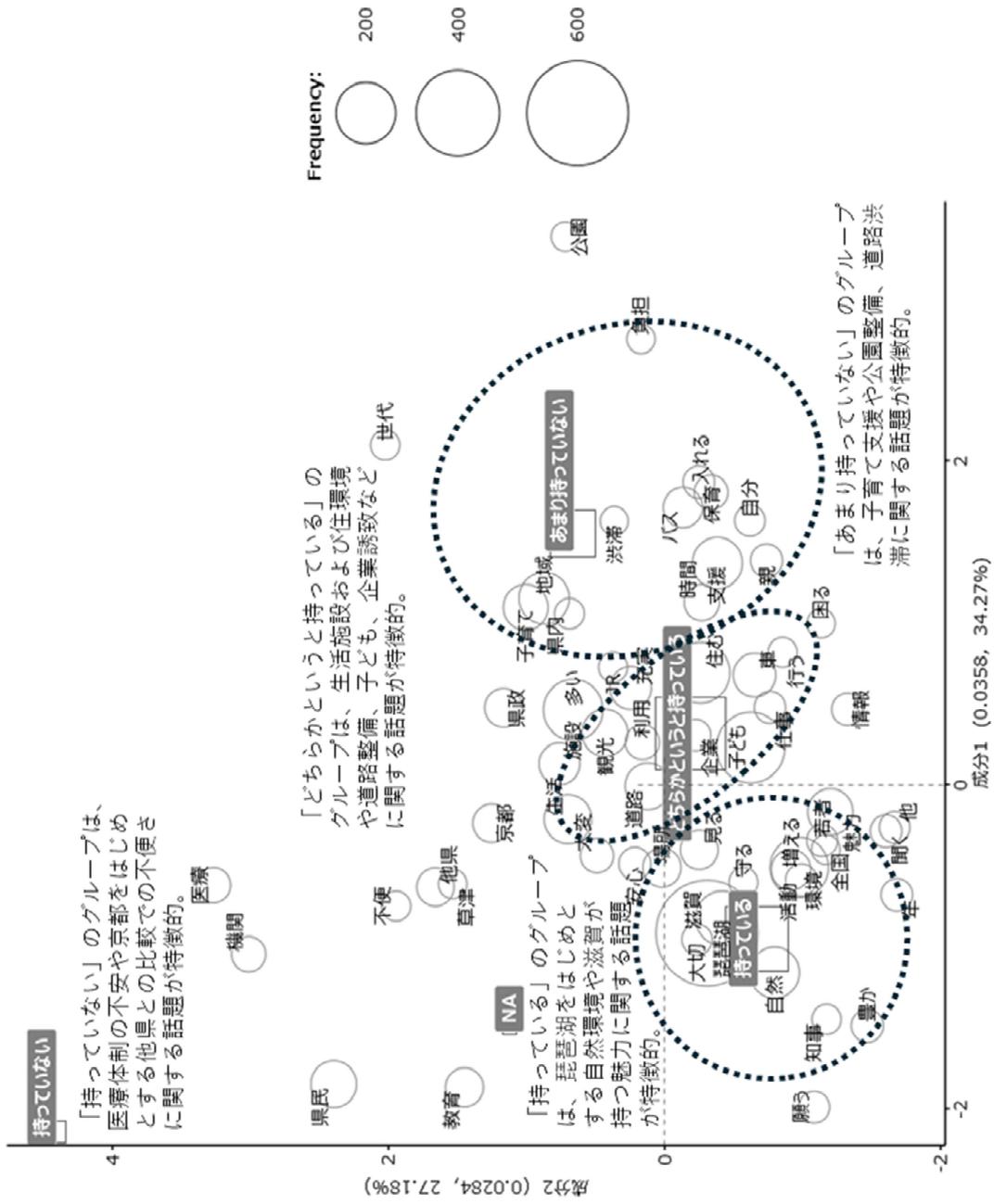
問5「居住履歴」と問31「県政に関しての意見」対応分析による特徴の把握



問6 「滋賀に住み続けたいか」と問31 「県政についての意見」 対応分析による特徴の把握



問7「誇りを持っているか」と問31「県政に関する意見」対応分析による特徴の把握



問8「県政への関心」と問31「県政に関しての意見」対応分析による特徴の把握

